

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	市民農園に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	6	1	3	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田 純一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	未利用区画の解消に向けた取り組みを検討する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	引き続き、未利用区画の解消に向けた取り組みを検討する。
②①に基づく取り組み結果	柵の改修など環境整備等を行い、利用者の利便性の向上に取り組んだ。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	野菜栽培を愛好する市民	意図(対象をどうするのか)	農業理解の契機とする。
②事務事業の概要	市街化区域内にある農地を借り受け、市民に農園の貸付を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化が進む中で、農業と市民が触れ合う貴重な機会として需要があり、今後も継続して利用希望があると予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	171区画中、154区画の農園貸付を行い、農業理解の契機とした。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 市民農園の利用区画数	151	151	154	区画	業務取得
	ii 巡回時の農業士への相談件数	14	27	11	件	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	3,292	3,058	金額(千円)	内容	2,835	
国支出金(千円)			2,797	市民農園用地借上料		
県支出金(千円)			261	市民農園柵改修工事		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	3,292	3,058			2,835	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	未利用区画が発生している。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	未利用区画を無くすための方策を検討する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	0		流用・充当		
	平成30年度への繰越額(単位:千円)				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	果樹剪定枝等堆肥化事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	3	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田 純一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	堆肥化以外の手法として、バイオマスへの活用について、検証を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	バイオマス発電への活用について引き続き精査し、事業の移行についても検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	試験的に、回収した剪定枝の一部をバイオマス発電に活用し、売電収入を得た。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	果樹剪定枝等	意図(対象をどうするのか)	堆肥化する。
②事務事業の概要	果樹剪定枝等を原料とした堆肥を生産する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成26年度から「鎌ヶ谷市果樹剪定枝等リサイクル事業推進協議会」が当該事業を引き継ぎ、堆肥の販売を行うとともに、バイオマス発電への活用について検証する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	平成28年度回収分のうち約217tの堆肥化を進め、約108tをバイオマス発電に活用した。また、市民向けに堆肥を約13t販売し、12,540円の販売収入を得た。						
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠	
	i	梨剪定枝回収量	679	679	904	m ³	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	6,071	8,924	金額(千円)	内容	8,924		
国支出金(千円)			1,553	果樹剪定枝等堆肥化事業用地借上料			
県支出金(千円)			7,371	果樹剪定枝等リサイクル事業負担金			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	6,071	8,924			8,924		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	近年、果樹剪定枝の排出量の増加が顕著化している。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	今後も引き続き精査・検証等を行い、剪定枝等リサイクル事業を推進する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	借地料及び負担金	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	借地料及び負担金を支出	8,924	8,924	当初	8,924	8,924	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			現年分	8,924
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成30年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	インターネット梨販売事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	6	1	4	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業振興課			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	飯田 純一			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	—	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	販売品種の増加、購入上限の撤廃、新たな販促イベント等の実施など、販売箱数増加に向けた取り組みを行う。
②①に基づく取り組み結果	—		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	関東圏外の人	意図(対象をどうするのか)	梨の販売
②事務事業の概要	関東圏外に限定し、梨のインターネット販売を行う梨農家に対して、補助金を交付する。また、販路拡大のため、PR等を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成32年度までは、「地方創生推進交付金」を活用した事業として実施することを予定している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	梨のインターネット販売において、豊水5kg箱を1,649箱販売した。また、販売を促進するために、羽田空港でPRイベントを開催した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 鎌ヶ谷産の梨のインターネット販売	3,150	4,200	3,958	千円	業務取得
	ii 認定農業者数	44	50	53	人	業務取得
	iii 新規就農者数	0	4	3	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	0	5,410	金額(千円)		4,632	
	国支出金(千円)	2,683	3,359		インターネット梨販売に係る補助金	
	県支出金(千円)		998		市特産品販売に係る補助金	
	市債その他(千円)		580		羽田空港PRイベント業務委託	
	一般財源(千円)	2,727			2,316	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業者が自立して取り組むための体制を構築する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	インターネット販売により販路拡大、販売促進を図り「鎌ヶ谷の梨」のブランド力の増加に寄与するため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	補助金、ポスター作成等	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金の交付、ポスター作成	6,594	6,594	当初	6,594	5,410	H28からの繰越
				補正			現年分
③達成状況	完了	流用・充当					
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円) 0					

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	農業委員会事務局の運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 等級
		一般	6	1	1	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	農業委員会事務局			
施策	331都市農業の育成	担当課室長	佐山 佳明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	7月に農業委員・推進委員が新体制となることから、委員会業務についての認識を共有し、業務を円滑に実施する。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	農地の最適化に向けた取り組みを推進するとともに、委員会業務について委員との認識を共有し、業務の円滑化を図る。
②①に基づく取り組み結果	平成29年度までの目標を定めた活動結果・検証評価の実施		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	農地法等に基づく業務を円滑に運営するための活動	意図(対象をどうするのか)	農業委員会事務の点検及び検証の実施
②事務事業の概要	農地法、農業経営基盤強化促進法、農業委員会法に基づく農業委員会業務を円滑に運営する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化に伴う農地の宅地化等により営農環境が悪化し、農業経営が厳しい状況の中、農業従事者の高齢化及び担い手不足により農地の遊休化が懸念されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	食糧自給率の向上のための優良農地の確保と有効利用及び担い手の育成確保と農用地利用集積の斡旋を行い、一団化した農地への誘導に努めた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	農業委員活動日数	561	638	333	日	活動記録簿
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	10,392	10,617	金額(千円)	内容	10,777		
国支出金(千円)			7,180	農業委員会委員報酬			
県支出金(千円)	1,371	1,219	1,970	農地利用最適化推進委員報酬	1,236		
市債その他(千円)	136	204			113		
一般財源(千円)	8,885	9,194			9,428		

IV 評価・検討

①課題	農業委員及び推進委員の業務内容について、両委員と共通の認識を持ち、取り組んでいく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	より効果的な農業委員会業務の運営の実現に向け、引き続き改善等の検討を行うため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越	
		H28⇒29繰越			現年分	
③達成状況						
④未完了・非着手の理由	平成30年度への繰越額(単位:千円)					